

チュウサギ *Egretta intermedia* (コウノトリ目サギ科)

(写真準備中)

生態情報

I からだの特徴

サギ類の中では、短^{みじか}めのくちばしをした中型の白いサギです。体の割りに首も短^{みじか}めに見えます。繁殖期^{はんしよく}の一時期^{いちじき}に婚姻色^{こんいんしよく}という独特^{どくとく}な色が出ます。目が赤くなり、くちばしの根元から顔にかけて黄緑色^{きみどりいろ}になります。

I すみ場所

本州から九州の各地で夏鳥^{はんしよく}として繁殖^{しゅうだん}します。ほかのサギ類と集団コロニー^{しゅうだんはんしよくち}（集団繁殖地：サギ山）を作ります。近年サギ山の減少と共に数が減っている鳥です。

I 生活のようす

水田^{すいでん}や湿地^{しっち}を好み、川の流れの中や海岸^{ひがた}、干潟^{ひがた}に出ることはありません。虫、小魚、カエルなどを捕まえますが、虫の占める割合が多いようです。

参 考

国や長野県のレッドデータブック^{きさい}に記載されています。

サギ類の中でもっとも個体数の多い種類でしたが、近年コサギが増えつづけチュウサギが減少する逆転現象が起こっているとも言われます。

オシドリ *Aix galericulata* (カモ目カモ科)

(写真準備中)

生態情報

I からだの特徴

中^{ちゆうがた}型のカモ類です。オスはオレンジ色の大きな銀杏羽^{いちようばね}を持ち、たいへん美しいカモです。メスは全身が暗灰褐色^{あんはいかつしよく}で、オスに比べ目立たない色合いです。

I すみ場所

全国に分布しています。県内では、山地^{さんち}の所々で繁殖^{はんしよく}していますが、観察例^{かんさつれい}は少ないです。木々が覆^{おお}い被^{うすぐら}さるような薄暗^{みずべ}い水辺^{みづべ}を好むため、山地^{さんち}の林^{はやし}に囲まれた湖沼^{こしょう}や溪谷^{けいこく}に生息しています。

I 生活のようす

他のカモ類よりよく木にとまり、木の枝の上をねぐらとします。水辺^{みずべ}に近い森のなかの大木にある樹洞^{じゅどう}に巣を作ります。産卵期^{さんらんき}は4～7月頃で、7～10 個の卵を産みます。人間では長年^{つそ}連れ添^{ふうふ}った仲の良い夫婦を「おしどり夫婦」といいますが、実際のオシドリは毎年繁殖^{はんしよく}する相手を変えることも多いです。

参 考

長野県の繁殖個体群^{はんしよくにたいぐん}が県のレッドデータブック^{きさい}に記載されています。

溪流^{けいりゅう}を代表とするカモ類です。溪流^{けいりゅう}の大きな淵で、群れでいるようすが観察^{かんさつ}できることが多いので、淵にはそっと近づいて観察してみてください。

マガモ *Anas platyrhynchos* (カモ目カモ科)

(写真準備中)

生態情報

Ⅰ からだの特徴

雄の緑色の頭と黄色いくちばしが、よく目立つカモ類です。

昔からアオクビと呼ばれていました。カモ類の中では最もよく鳴く種類です。

Ⅱ すみ場所

北半球全域で繁殖している鳥で、日本には冬鳥として越冬(冬越し)にきます。太平洋側より日本海側に多く渡来する傾向があります。北海道では夏に繁殖しています。本州や九州でも、ときどき繁殖することがあります。

Ⅲ 生活のようす

狩猟鳥のため昼間は安全な水面で、群れて休んでいることが多いです。夜になると湿地や水田などに移動し、草の種や水草などを食べます。

参 考

長野県の繁殖個体群が県のレッドデータブックに記載されています。

マガモを人間が飼いつづけたもの(家禽化したもの)が、アヒルです。アヒルにはさまざまな品種があり、アオクビアヒルやクロアヒルなどがあります。アオクビアヒルとマガモを掛け合わせたものが、アイガモです。

ハチクマ *Pernis apivorus* (タカ目タカ科)

(写真準備中)

生態情報

Ⅰ からだの特徴

翼が長く、尾羽の白黒の太い横しまが特徴的なタカです。飛ぶときに頭がペン先のように細く突き出て見えます。体の模様や色はさまざまで、個体ごとに違います。

Ⅱ すみ場所

サシバと共に渡りをすることで有名なタカです。冬は東南アジアで越冬し、夏は極東から中央アジアで繁殖します。日本では近畿地方より北の地域で繁殖しています。丘陵地や低地に生活します。

Ⅲ 生活のようす

名前の通りハチが大好物です。8月～9月にかけて地下にある地バチの巣を掘り起こして、ハチの子をヒナに与えて子育てします。ハチに刺されても平気なのか、それとも刺されないのか、まだよく分かっていません。またハチ以外にもカエルやヘビも捕ります。

参 考

国や長野県のレッドデータブックに記載されています。

ノスリ *Buteo buteo* (タカ目タカ科)



撮影: 長井 眞隆

生態情報

Ⅰ からだの特徴

トビより少し小さいタカです。翼や尾羽が短めで全体にまんまるつちく見えます。翼^{つばさ}や体の下面は白く、腹に茶褐色^{ちやかっしょく}の横しま、翼の前のほう黒斑^{こくはん}が入ります。顔をよく見ると口ひげのような模様^{もよう}があります。

Ⅱ すみ場所

日本では留鳥として本州の中部^{はんしよく}より北で繁殖しています。低地から山地の林、草原^{のうこうち}、農耕地などに生活しています。

Ⅲ 生活のようす

おもにネズミ^とを捕りますが、カエルや鳥類、虫なども食べます。なかにはモグラや死んだ魚などを食べるノスリもあります。長時間はばたかずに飛ぶことができる体つきをしていて、浅いV字に翼^{つばさ}を広げ、風に乗って空中に浮かんでいるのがよく見られます。

参 考

長野県のレッドデータブック^{きさい}に記載されています。

クマタカ *Spizaetus nipalensis* (タカ目タカ科)

(写真準備中)

生態情報

Ⅰ からだの特徴

翼^{つばさ}を広げると145～160cmほどの大きなタカです。翼^{つばさ}と尾羽の縞模様^{おばね}(タカ斑^{しまもう})が目立ちます。尾は長めで幅が広いです。おなか^すが白く、黒い横すじがあります。

Ⅱ すみ場所

本州から九州^{さんち}の山地に分布しています。森林^{しんりん}に生息し、営巣^{えいそう}可能な大きな木を必要とします。巣のある大きな谷^すを中心として行動し、その範囲^{すいてい}は4km四方以上と推定されています。

Ⅲ 生活のようす

一年中同じ地域で生活しています。巣は、モミ、ツガ、ブナなどの巨木に作ります。求愛^{きゅうあい}期は1月頃始まり、3～4月頃に産卵^{さんらん}し、初夏^{しよか}頃には巣立ちします。餌^と捕りは、林縁^{りんえん}や開けた場所のほか、大きな体で森の中を飛び回り、ノウサギ、ヘビや鳥類^{つか}を捕まえます。

参 考

国や長野県のレッドデータブック^{きさい}に記載されています。

クマタカは、人間の行動・干渉にとっても敏感^{びんかん}です。もし、近くで見かけることがあれば、静かに観察^{かんさつ}しましょう。

ライチョウ *Lagopus mutus* (キジ目ライチョウ科)

(写真準備中)

生態情報

I からだの特徴

ニワトリくらいの大きさの鳥です。羽毛の保護色は有名で、季節ごとに羽が羽代
わります。夏羽のオスは黒褐色、メスは黄褐色。秋羽は茶褐色。冬羽は尾を除き
真っ白になり、雪のなかで見分けがつかなくなります。

I すみ場所

日本アルプスと新潟県火打山周辺の高山帯に留鳥として1年中生息します。長野
県下では立山連峰に生息が確認されていますが、南アルプスの個体群は急速
に数を減らしているようです。年間を通じてハイマツ帯と高山草原に生息し、地上
を歩きながら植物の葉、実、花などをついばんで食べます。

I 生活のようす

氷河期の遺存種(生き残り)といわれています。6～7月に3～9個の卵を産みま
す。生まれたヒナはすぐに親の後を付いて歩き、よく砂浴びをします。

参 考

国の特別天然記念物です。また、国や長野県のレッドデータブックに記載されて
います。学術的に貴重で、生存が危ぶまれています。出会った時は、驚かさな
いように静かに観察しましょう。

イカルチドリ *Charadrius placidus* (チドリ目チドリ科)

(写真準備中)

生態情報

I からだの特徴

長さ21cm翼を広げると41cmの小型のチドリです。くちばしと脚が長く、飛ぶと翼
に白い線が見えるのが特徴です(翼帯といいます)。よく似たコチドリは翼帯が無く
少し小さいです。

I すみ場所

本州から九州までの各地で普通に分布し、繁殖します。北日本ものは寒い冬には
暖地へ移動します。川の中流より上の砂礫(砂と石混じり)の川原や中州に生活し、
冬季には水田などにも現れます。

I 生活のようす

地面を浅く掘り巣を作ります。普通4つの卵を、尖った方を中心に向けて十字型に産
みます。産まれたヒナはすぐ巣を離れ、親鳥について歩きます。繁殖地で、人間や
犬などの敵が近づくと、親鳥はいかにもけがをしているように見せかけて、敵を誘
い、巣から離れさせようとします(偽傷)。餌はおもに昆虫などです。

参 考

長野県のレッドデータブックに記載されています。溪流や河川の砂礫の河原に生息
し、河川中流域を代表するチドリです。観察中に偽傷がみられたら、そばには巣が
あるかもしれないので、静かに離れましょう。

オオジシギ *Gallinago hardwickii* (チドリ目シギ科)

(写真準備中)

生態情報

Ⅰ からだの特徴

目が後ろのほうについているタシギ類の仲間です。ズビヤ-クと鳴きながらすごい風切音かぜきりおんを出して飛び回るので、雷シギと呼ばれています。声が聞けたら、姿も確認かくにんできるでしょう。姿だけではタシギ類の判別は難しいです。

Ⅱ すみ場所

日本列島とオーストラリア大陸に分布する渡り鳥わた どりです。夏鳥なつどりとして中部地方より北で繁殖はんしよくします。タシギの仲間なつどりで夏鳥はオオジシギだけなので、真夏に見かけたら、オオジシギでしょう。

Ⅲ 生活のようす

繁殖期はんしよくきのオスは周囲を見渡せる電柱や樹木の上でさえずったり、ズビヤ-クと鳴きながら飛びまわります(ディスプレイ飛行)。長いくちばしで地中のミミズや昆虫つ かを捕まえます。

参 考

国や長野県のレッドデータブックき さいに記載されています。

ジュウイチ

Cuculus fugax (カッコウ目カッコウ科)

(写真準備中)

生態情報

Ⅰ からだの特徴

背中と頭の黒いカッコウの仲間です。ホトギスの仲間の特徴である黄色いアイリングが目立ちますが、胴体下面の横しまはありません。タカの仲間ぎたいに擬態ぎたいしていると言われています。ジュ-イチ・ジュ-イチとだんだん速く繰り返鳴きます

Ⅱ すみ場所

東アジアから東南アジアに分布しています。日本には夏鳥なつどりとして渡来し、ホトギス類の中では、もっとも標高ひょうこうの高いところで繁殖はんしよくします。

Ⅲ 生活のようす

他の鳥の巣の中に卵を産み落とし、育ててもらう「托卵たくらん」を行います。ジュウイチの托卵相手は主にコルリです。ほかにコレリビタキ、オオルリなどにも托卵たくらんします。

参 考

コルリは標高ひょうこうの高い山地に住む青い小鳥で、ツグミの仲間です。

アオバト *Sphenurus sieboldii* (ハト目ハト科)

(写真準備中)

生態情報

Ⅰ からだの特徴

明るい緑色をした山のハトです。オスの翼^{つばさ}の付け根は赤紫色です。
オーアーオーアーと鳴きます。

Ⅱ すみ場所

東アジアから東南アジアに分布しています。日本全国で繁殖^{はんしよく}し、北日本のものは冬季、南に移動します。森林性^{しんりんせい}のハトで開けた場所にはあまり出てきません。

Ⅲ 生活のようす

おもに木の実や新芽を食べます。他のハトと同じようにピジョンミルクと呼ばれる液体で子育てをします。夏から秋にかけて塩分をとるために海岸まで飛び、海水を飲みます。また近くに温泉や工場があれば、その排水^{はいすい}を飲むこともあります。

参 考

長野県のレッドデータブックに記載^{きさい}されています。

飛びながら海水を飲もうとするため、海が荒れると、多くのハトが波に飲まれ命を落とします。

ヤマセミ *Ceryle lugubris* (フッポウソウ目カワセミ科)

(写真準備中)

生態情報

Ⅰ からだの特徴

翼^{つばさ}を広げるとは67cmほどのカワセミの仲間です。翼^{つばさ}、背、尾が黒白の斑模様^{もよう}で、頭にはぼさぼさした長い冠羽^{ななかま}があります。大きなくちばしが特徴的です。

Ⅱ すみ場所

北海道から九州までの各地に留鳥^{りゅうちょう}として分布し、繁殖^{はんしよく}しています。海岸から低山の河川、湖沼、池などに生息します。河川上流域^{けいりゅう}や溪流^{けいりゅう}に生息しますが、多雪地帯では冬には下流域へ移動します。

Ⅲ 生活のようす

繁殖期^{はんしよく}に川や湖の近くの垂直な土の崖^{がけ}に深さ 90～140cm のトンネルを掘り、その奥に巣をつくります。餌^えは、空中から水中に突っ込んで魚をくちばし^{つか}で捕まえます。捕まえた魚は、川辺の付近の枝のうえで、打ち付けて気絶^{きぜつ}させたり、骨を折ってから、頭から飲み込みます。

参 考

長野県のレッドデータブックに記載^{きさい}されています。

餌^えの魚の減少^{げんしょう}と河川工事により巣を作る環境^{かんきょう}が失われており、生息数が減少しています。溪流^{けいりゅう}の上空を、大きな白っぽいヤマセミが、キャラキャラと鳴きながら飛ぶのはとてもよく目立ちます。

アカショウビン *Halcyon coromanda* (フッポウソウ目カワセミ科)

(写真準備中)

生態情報

Ⅰ からだの特徴

全身が赤茶色でくちばしが大きく赤いカワセミの仲間です。キョロロローと美しく鳴き、遠くまでよく響きます。薄暗い林などにいるのでその姿はなかなか拝めません。

Ⅱ すみ場所

日本から東南アジアにかけて生息しています。国内では全国に夏鳥として繁殖しています。日中は薄暗い林にいますが、早朝や雨の日などは明るいところでもさえずることもあります。

Ⅲ 生活のようす

ほかのカワセミ類と違い、水中に飛び込むことはあまりしません。地上に降りて、水辺近くや地上の小動物を、くちばしでくわえてとります。巣は土の崖に穴を掘ったり、キツツキの古巣を使ったりします。

参 考

長野県のレッドデータブックに記載されています。

ミズコイドリやミズホシドリなどの地方名があり、これは水を飲もうとすると、水に映る真っ赤な自分の姿がおそろしくて飲めないで、「水がほしい…」と鳴くのだという伝承に由来しています。

カワセミ *Alcedo atthis* (フッポウソウ目カワセミ科)

(写真準備中)

生態情報

Ⅰ からだの特徴

翼を広げると約25cmの、日本最小のカワセミ類です。コバルト色の美しい鳥で、お腹側はオレンジ色です。大きなくちばしが特徴的です。メスは下くちばしが赤くなります。

Ⅱ すみ場所

日本全国に分布し、繁殖します。冬季、寒い北方のものは暖かい地方に移動します。海岸から低山の河川、湖沼、池などに生息します。県内では低地から低山の河川や湖沼、都市公園の堀などでも見られます。

Ⅲ 生活のようす

繁殖期に川や湖の近くの垂直な土の崖に深さ 90~140cm のトンネルを掘り、その奥に巣をつくります。餌は、水中に突っ込んで魚をくちばしで捕まえます。捕まえた魚は、枝のうえで、打ち付けて気絶させたり、骨を折ってから、頭から飲み込みます。生活はヤマセミと似ており、同じ場所にすんでいることも多いです。

参 考

かつては清流の象徴でしたが、最近では都会でも見られる身近な鳥になりました。溪流や水辺を低く、チーと鳴きながら飛ぶ様子がよく観察されます。

アオゲラ *Picus amokera* (キツツキ目キツツキ科)

(写真準備中)

生態情報

Ⅰ からだの特徴

背中が緑色のキツツキの仲間で、とてもよく目立ちます。おなか側は横縞模様、頭は赤いです。翼を広げると50cmくらいになります。飛ぶときによくケラケラと鳴くのが、観察されます。

Ⅱ すみ場所

本州から九州、屋久島までの平地から山地の林で生活しています。冬になると町の公園などに下りてきたりします。日本固有種です。

Ⅲ 生活のようす

生きた木にくちばしで穴を掘り、巣にします。繁殖期には木の幹を連続してつつくドラミング音を出します。エサは木の幹にいる虫や木の中の幼虫をくちばしで掘り出して食べます。虫の少ない時期などは、カキの実なども食べます。

参 考

アカゲラ、オオアカゲラ、アオゲラの3種は鳴き声、ドラミング音がよく似ています。なるべく姿を確認してから判別しましょう。

キセキレイ *Motacilla cinerea* (スズメ目セキレイ科)

(写真準備中)

生態情報

Ⅰ からだの特徴

長い尾を上下に振りながら水辺を歩く、黄色いセキレイの仲間です。チンチンと鳴きハクセキレイ、セグロセキレイの中では一番きれいに聞こえます。背中側が黒く、胸と尾羽の下側が黄色く、顔も黒く白い眉が入ります。

Ⅱ すみ場所

北海道から九州まで全国的に普通に生活している鳥です。積雪の多い地方では、冬に暖かい地方に移動する個体が多いです。セキレイ類3種の中では、小川、溪流などの上流部や小河川にすむようです。

Ⅲ 生活のようす

水辺を活発に歩き回り、虫やクモを餌にします。4～8月に繁殖し、石垣、崖地のくぼみや人家の屋根のすき間などに巣を作ります。繁殖期はつがいで縄張りを持ちますが、冬になると単独で生活します。

参 考

ハクセキレイの幼鳥はおなか黄色く間違えやすいですが、ハクセキレイの顔は白く黒い眉をしています。また鳴き声は、ジュンジュンと濁ります。

カワガラス *Cinclus pallasii* (スズメ目カワガラス科)

(写真準備中)

生態情報

I からだの特徴

翼^{つばさ}をひろげると32cmほどの溪流^{けいりゅう}にすむ鳥です。メスオス同色で、親鳥^{おやどり}はほぼ全体が濃い茶色です。幼鳥^{ようちよう}は翼^{つばさ}が黒褐色^{くろかつしよく}、全体は淡い茶色でほぼ全体にうろこ模様^{もよう}があり、ミソサザイよく似ていますが、大きさと横しまの有無で区別できます。

I すみ場所

北海道から九州までの全国の山地^{さんち}に普通^{ふつう}に分布します。山地^{さんち}の溪流^{けいりゅう}や沢、河川^{かえん}の中～上流域^{かんきよう}の石や岩の多い環境^{ねんかん}が好きです。年間を通じて同じところに生息することが多く、季節による移動はあまりしません。

I 生活のようす

1月頃から繁殖期^{はんしよく}に入り、溪流^{けいりゅう}の岩のすき間^{うらがわ}や滝の裏側^{うらがわ}にコケ類を材料にした直径約 30cm ほどの丸い巣を作ります。食べ物^{たべもの}は、おもにカワゲラ、カゲロウ^{よう}の幼虫など川虫^{すいせいこんちゆう}（水生昆虫）や小魚^{つ か}で、餌を捕まえるために、溪流^{けいりゅう}の水中に潜り、飛ぶように水中を泳いだり、川底^{かわぞこ}を歩いたりして餌を探します。

参 考

溪流^{けいりゅう}を代表する水辺^{みずべ}の鳥です。溪流^{けいりゅう}沿いや橋の上から近づくと、ビツ、ビツと鳴きながら飛んでゆく様子がよく観察^{かんさつ}されます。もし見かけたらじっとして、泳ぐ様子などを観察^{かんさつ}してみましょう。

ミソサザイ *Troglodytes troglodytes* (スズメ目ミソサザイ科)

(写真準備中)

生態情報

I からだの特徴

よくとおる美声^{ちやかっしよく}でさえずる、早口の小鸟です。体は茶褐色^{ちやかっしよく}で、スズメより小さく姿を確認^{かくにん}しづらい鳥です。短い尾をもち、常に尾を立てたり下ろしたりしています。

I すみ場所

全国で繁殖^{はんしよく}しています。冬に積雪^{せきせつ}のある地方では南に移動します。倒木や岩のすき間の多い暗い林^{はやし}を好むため、山地の沢沿いや高山^{しんよう}の針葉樹林^{じゆりん}などの急斜面^{きゆうしやめん}に生息します。

I 生活のようす

物陰^{ものかげ}や岩のすき間^{すきま}にいるクモや虫^とを捕るため、地上中心^{いっぐ}の生活をします。一夫多妻^{たさい}で、オスは縄張り^{なわばり}内にいくつかの巣を作り、同時に順番^{しゆばん}に複数のメスと繁殖^{はんしよく}します。巣は苔^{こけ}で作ります。

参 考

この小さな体のどこからでるのか不思議なほど大きな声でさえずります。

オオルリ

Cyanoptila cyanomelana (スズメ目ヒタキ科)

(写真準備中)

生態情報

I からだの特徴

目のさめるような^{るりいろ}瑠璃色(青色)の背を持つ美しい鳥です。オスは背中が青、顔と胸が黒、腹が白ととても目立ちます。反対にメスは^{ちやかっしよく}茶褐色の背中で地味です。

I すみ場所

北海道から九州の^{きゆうりょうち}丘陵地、^{さんち}山地に^{なつとり}夏鳥としてやってきます。つがい^{ふうふ}(夫婦)で^{なわば}縄張りを持ち、オスは^{なわば}縄張り内の背の高い木の梢で^{なわば}縄張り宣言のさえずりを行います。谷沿いのよく茂った^{はやし}林を好み、^{がけ}崖や^{いしがき}石垣のくぼみに^{わん}コケで出来た^{わん}椀型の巣を作ります。

I 生活のようす

木から飛び立ち空中の虫を^{つか}捕まえます。これをフライングキャッチと呼びます。また葉についている虫などもよく^と捕ります。オスのさえずりは大変美しく、いくつかの^か替え歌を持ちます。一説によると、替え歌の^か豊富なオスのほうが^{ほうふ}メスにもてるようです。

参 考

鳴き声の美しさから、日本三鳴鳥と呼ばれ、よく^{しいく}飼育されてきましたが、現代では^{しいく}飼育はできません。

ホトギスの^{なかま}仲間のジュウイチという鳥は、オオルリを^{たくらん}托卵相手にしています。

サンコウチョウ

Terpsiphon atrocaudata

(スズメ目カササギヒタキ科)

(写真準備中)

生態情報

I からだの特徴

長い尾を引いて^{ゆうが}優雅に飛び回る鳥です。目の周り^{つぎひほし}コバルト色のアイリングをもちます。さえずりが「月日星ホイホイホイ」と聞こえるため^{さんこうちょう}三光鳥と名前がついています。

I すみ場所

日本を中心とした^{わた}極東と東南アジアを渡る^{なつとり}渡り鳥です。日本には^{なつとり}夏鳥として、九州から本州で^{はんしよく}普通に繁殖します。暗い森林を好み、スギやヒノキの^{しよくりんち}植林地にも生息します。

I 生活のようす

空中でクモや昆虫を^{つか}捕まえます。つがい^{なわば}で^{なわば}縄張りを持ち、外敵をすぐに追ひ^{わた}払います。そのときホイホイホイと鳴くようです。

参 考

長野県の^{きさい}レッドデータブックに記載されています。

メスの尾は長くありません。オスは長い尾を引いて東南アジアからはる^{わた}ばる渡つてきます。